

AFFINITY

Stannum metallicumは、主に神経系、粘膜、胸部、女性生殖器系、肺などに作用します。左側優勢レメディです。

CLINICAL APPLICATIONS

臨床では、衰弱した重度の呼吸器感染症に、よく使用されるレメディの1つです。

■一般

- ・慢性疲労症候群：極度に衰弱しています。顔色が青白く、体重も減少しています。横たわっているのが楽に感じます。朝、日の出とともに悪化して、日没とともに楽になります。

- ・間欠熱

■呼吸器系

- ・喘息：衰弱していて、わずかに動いたり、話をしても呼吸が苦しくなります。
- ・慢性気管支炎：全身衰弱していて、胸部に虚脱感や空虚感があります。話をすると症状が悪化します。気管支が拡張しています。痰がたくさん出ます。
- ・慢性肺炎
- ・重度の呼吸器系感染症
- ・結核：通常の治療に併用して使用します。抗生物質の投与期間が短縮されるとの報告があります。

■泌尿器系

- ・子宮脱：排便時に悪化します。
- ・陰炎



■神経系

- ・頭痛、片頭痛：とくに前頭部と側頭部。痛みは、ゆっくりと始まり、ゆっくりと消退していきます。
- ・神経痛

MODALITY

- ▶ 急な動き、患部の圧迫、外気、体を二つに折り曲げる、うつ伏せに寝ること、咳、痰を吐くことなど
- ▶ わずかな動き、声を使うこと（話、笑うこと、歌うこと、など）、寒さ、午前10時、動き、温かい飲物など

●主なStannumのレメディ

Stannum metallicum, Stannum iodatum, Stannum muriaticum, Stannum phosphoricum, Stannum sulphuricum

Staphysagria ヒエンソウ(飛燕草) [虐待や屈辱, 憤り]

Delphinium staphisagria L.

Staphysagria macrocarpa, Staphysagria pedicularis

BACK GROUND

スタフィサグリア Delphinium staphisagria は、キンポウゲ科ヒエンソウ属の Stavesacre, または palmated larkspur と呼ばれる植物の種からつくられます。Delphinium はギリシア語でイルカを意味し、この属の花の形がイルカの鼻に似ていることが、語源となっています。日本では花の形が飛ぶ燕に似ていることから飛燕草と呼ばれます。

Staphysagria は、古代ギリシア語で、Staphis はレ

ーズン, agria は野生のという語源から来ており、この植物の葉がぶどうの葉に似ていることに由来します。また、ラテン語で staphis シオガマギク (駆虫草), agrios 鋭いという意味があり、この植物の種が駆虫草として使用されていたことに由来する、という説もあります。この説を裏付けるように古代ローマでは、この植物を Pedicularia シラミの駆虫草と呼んでいました。

原産地は南ヨーロッパ高地ですが、今ではアジアに

も見られます。2年性の植物で、4月から8月にかけて薄い青紫色の花を咲かせます。

ヒポクラテスの時代から、この植物は下剤や催吐剤として用いられたり、外用薬としてシラミなどの外部寄生虫の駆除に使用されていました。また、歯痛や神経痛にも使用された記録があります。

ハーネマンがレメディにしたのは、J.H.Schultzeが歯痛を止めようとしてこの植物の種を口の中に入れたところ、気が狂うほどの悪感情の激化があったことがきっかけのようです。

この植物は多量に摂取すると、クラレーのように運動神経麻痺を引き起こします。脊髄麻痺の作用から、ストリキニーネによる痙攣発作を止めるために使用された記録もあります。

MATERIAL

開花期後に新しくできた種子

FIRST PROVING

この植物の種は非常に毒性が強く、ハーネマンは彼のグループ10人とともに、1819年にこのレメディをプルービングしました(『Materia Medica Pura』第4巻)。

レメディのマザーティンクチャーの中には、各種脂肪酸、マリク酸、デルフィニンやスタフィサグリンなどのアルカロイドが含まれています。この中でデルフィニンは、植物分類学上近い種類であるAconitumに含まれている、アコニチンと化学構造も薬理作用も似ています。

MIND

Staphysagriaタイプは、優しくて思いやりがあり、親切です。他人に対していい人であろうと努力します。また、他人に対して悪い感情、とくに怒りや憤りがあっても、それを心の深い所に抑えてしまいます。そのため、人と対立することはありません。不快な状況というのをできるだけ避けようとします。

とくに虐待や屈辱を受けたことのある場合は、周りの人のふるまいには、非常に神経質になります。そして、そのすべての感情を抑え込んでしまいます。それが溜まってくると、自己コントロールを失うのではないかと怖れることがあります。その感情が抑えきれずに爆発するのは、いちばん最後の段階に限られます。

このタイプは、プライドが高く、いつも他人よりも優れていたいと思っています。そして同時に、自己の内面の脆弱性も知っています。そのために、他人をコントロールできるか、あるいは他人にコントロールさ

れてしまうかという両局面で、不安定になりがちです。ですから、権力というものに対しても嫌悪感をもっています。

また、このタイプは、非常にロマンチックでもあります。ただし、自分自身の中でロマンチックな空想が広がり、夢中になってしまうことがあります。現実の世界では、恋愛対象となる人の前では内気になってしまいます。そのため、恋人と距離をおいてしまう傾向があります。性欲は強いほうですが、恋人とはプラトニックな関係でも十分満足します。そして、最終的に別れたときには落ち込んでしまいます。その内気な性格と人との距離をおいてしまう性格から、性交パートナーを見つけられないので、自慰に耽る傾向があります。夜寝る前の日課となっていることがあります。

Staphysagriaタイプの子供は、Natrum muriaticumタイプに似ています。おとなしく、とても真面目です。非常に繊細で、傷つきやすく、その感情を抑える傾向があります。しばしば、虐待する両親などによって育てられています。痛みに対しては、非常に敏感で、触られることによって悪化します。

動物におけるStaphysagriaは、猫よりも犬で比較的多く使用されます。行動療法の補助に非常に有用なレメディの1つです。

暴力的な飼主に、いつも怒られたり叩かれたり虐待されているのに反抗できず、我慢してしまいます。外見上はおとなしく穏やかに見えます。叩かれたくないために受身になって、飼主を喜ばせようとして、不満は抑圧して心の中にしまい込みます。

Staphysagriaタイプの動物は、常に屈辱感をもっています。このレメディを投与すると、抑圧された怒りが噴出することがあります。また飼主に赤ちゃんができて、飼い犬が嫉妬から問題行動を起こす場合や、なわばりに勝手に踏み込まれた気分するとき、人のいいなりにされて抵抗できない状況などにも使用されます。虐待を受けているほか、非常に厳しいしつけをする飼主に飼われている場合にもあてはまります。

肉体レベルでは、不妊去勢手術後をはじめ、手術後に虐待を受けたように感じている動物に効果があります。また、膀胱炎などの泌尿生殖器系の疾患や関節炎、皮膚病、不眠症、歯痛、眼の感染症などにも使用されます。

Staphysagriaタイプの特徴として、便が腐った卵の臭いがします。甘い物やアルコール飲料が大好きです。脂物を嫌います。牛乳は好きか嫌いかのどちらかです。食後や暖めることで好転します。

AFFINITY

このレメディは神経や感情、そして、泌尿生殖器系に強く作用します。ハーネマンは、彼の『Materia Medica Pura』の中で、438項目もの徴候を記録していますが、それらは神経や感情、泌尿生殖器系に関連しているものが多く含まれています。とくに屈辱、怒り、悲しみ、憤りなどの感情を抑圧している場合に適したレメディです。

このほか、歯、線維組織（とくに眼瞼、皮膚）、腺、右の三角筋などに親和性をもっています。

CLINICAL APPLICATIONS

■精神神経系

- ・心理的な症状：とくに屈辱、怒り、悲しみ、憤りなどの感情を抑圧している状態。また、とくに過去に性的虐待を受けたことがある場合。
- ・心理的な影響からくる各種症状
- ・ふるえ：怒りや感情的になったときに起こります。
- ・不眠症：日中は眠くて夜、目が冴えてしまいます。あくびが頻繁に出ます。疲れていてもなかなか熟睡できません。また性的な興奮から眠れない例もありますが、この場合は自慰によって眠ることができません。
- ・顔面神経痛、大腿神経痛
- ・顔や眼瞼のチック
- ・頭痛：頭の前頭部や後頭部の中に木のボールが入っているような頭痛、または圧迫されるような頭痛、前頭部に重い物で穴を開けられるような頭痛、麻痺感覚のある頭痛などがあります。頭痛は、怒りや憤りを抑えること、感情の高まった状態、自慰などによって悪化する傾向があります。
- ・背中・の痛み、腰痛：日の出前の早朝、性交などで悪化します。
- ・めまい：丸く円を描くように歩き回ると楽になります。
- ・多発性硬化症

■泌尿生殖器系

- ・膀胱炎：若い女性でとくにはじめての性交渉の後に起こります。「新婚性膀胱炎」「ハネムーン膀胱炎」などと呼ばれています。性交のたびに膀胱炎になる例もあります。
- ・膀胱瘤
- ・膀胱痛：透明の尿が出ます。
- ・泌尿生殖器系の手術後
- ・女性性器の過敏：痛みがあり、性器にわずかでも触れられるのを嫌います。
- ・尿道炎

- ・遺尿症
- ・過度の自慰：性欲は旺盛にありますが、内気なので安心できるパートナーをうまく見つけられない場合、自慰を頻繁にします。
- ・精液漏
- ・前立腺炎、精巣炎
- ・精巣腫瘍
- ・前立腺肥大
- ・睾丸の萎縮
- ・勃起不全

■皮膚

- ・外科手術による傷、外科手術後の痛み
- ・傷の治癒遅延
- ・痒痒症：体中あちこちかゆがります。搔くと落ち着きますが、またすぐに別の場所がかゆくなります。
- ・皮膚腫瘍、いぼ
- ・乾癬、湿疹：精神的なストレス後に発病します。
- ・限局性脱毛：精神的なストレス後に発病します。
- ・汗疱状白癬

■眼

- ・再発性麦粒腫：とくに上瞼
- ・霰粒腫
- ・涙腺炎、眼瞼炎：目やにを伴います。
- ・虹彩炎
- ・角膜裂傷、角膜の傷

■消化器系

- ・歯周炎：歯肉から容易に出血します。
- ・齦歯、歯頸病変：病変部が黒くなっていることがあります。
- ・歯痛：冷たい飲物や冷たい空気、食後、生理中に悪化します。
- ・口内炎
- ・唾液分泌過多
- ・喉頭炎：飲み込むときに鋭い痛みが耳（とくに左耳）まで届きます。
- ・妊娠中の胃炎：唾液分泌過多を伴う吐き気や嘔吐があります。
- ・胃潰瘍
- ・胃痛：怒りや憤りの後の胃痛
- ・腹部の疝痛：怒りや憤りの後
- ・便秘
- ・下痢：卵の腐ったような匂いがすることがあります。

■その他

- ・結合組織病
- ・Peculiar sensations：特異的な感覚
足に力が入らずに崩れ落ちそうな感覚、額に丸い球

があるような感覚、ボーッとする、頭が破裂するような感覚、頭部が圧縮される感覚、骨が絞り出される感覚、脳がバラバラに裂けるような感覚、後頭部に穴があいたような感覚、脳の後ろ半分が木でできていて思考することができない、後頭部が内部と外部から圧縮されるような感覚、頭骨に何か固い物を押しつけられているかのような感覚、眼が非常に乾燥している感覚、硬い物が上瞼の下にあるような感覚、耳の中に風が吹き込むような感覚、頬が腫れたような感覚、下顎の腺が腫れているような感覚、胃の上におもりが載っているような感覚、膀胱が空にならないような感覚、精巣が圧縮されるような感覚、鳩尾あたりの不思議な感覚、胸部を打撲したような感覚、過酷な仕事をしたかのように疲れている感覚、左手の指先に硬い皮膚が被さるような感覚、全身が打ち身にあったような感覚など。

ど。

MODALITY

- ▶ 朝食後、休息（背中の痛みの場合は除く）、暖めること
- ◀ 患部にわずかにでも触られること、圧迫（歯痛は除く）、感情的ストレスがあったとき、昼寝の後、虐待、性交、過度の性的活動、冷たい飲食物、新月、排尿後、喫煙など

RELATIONS

- ・ Antidotes : Camphora
- ・ Complementary : Colocynthis, Causticum, Thuja
- ・ Incompatible : Ranunculus bulbosus

Stellaria media コハコベ [熱感や灼熱感、天気予報の花]

Stellaria media (L.) Cyrillo

Alsine medica L.

BACK GROUND

Stellaria media は、ユーラシア大陸原産でナデシコ科ハコベ属の1、2年草コハコベです。日本にも帰化しており、道端によく見られます。



(A)

ナデシコ科は世界に約80種類あり、その中のハコベ属植物は世界中に120種以上が知られていて、主に温帯地方と熱帯の高山帯に分布しています。日本にも10種以上があり、コハコベ、ミドリハコベ、ウシハコベ、ヤマハコベ、サワハコベなどがあります。乾燥

したところから湿ったところまで、また日向からかなり日陰のところまで生えている強い野草です。ハコベの名は、古典的な名の波久倍良（ハクベラ）が省略されて、ハコベと名がついたと言います。ハクには絹糸、ベラには群がるという意味もあったそうです。

英語では、一般的にChickweed, Adder's mouth, Satin flower, Starwort, Stitch wort, Tongue grass, Whitebird's eyeなどと呼ばれます。学名の*Stellaria* は、その花の形からstellar星のようなという意味から来ています。

一般にハコベと呼ばれているものには、このコハコベとミドリハコベがあります。両者は非常によく似ています。コハコベは茎の色が暗紫色を帯びていて、雄しべの数がコハコベは3～7本であるのに比べて、ミドリハコベのほうは、茎が緑色で雄しべの数は8～10本です。葉や花の大きさも、コハコベのほうが小さめです。またコハコベは、発芽から開花にいたる期間も短く、繁殖力も強いほうです。

コハコベは、草丈10～40cm、茎は多肉質で暗紫色を帯び、地面に伏して多くの分枝が出ています。葉は濃い緑色で、長さ5～10mmほどの小さな卵円形です。

開花期は長く、2～10月です。花は、小さな白色の